

CX週間展望(12月27日～)

週間展望(12/27～1/2)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27～1/2)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《～前略》。クリスマス休場に伴う薄商いの中、史上最高値圏にあるNY株式市場に大きめの調整が入る可能性や、ドルロングの調整が短期的に続く可能性には注意したい。
- バイデン米政権が子育て支援や気候変動対策に10年で1.75兆ドル(約200兆円)規模を投じることをめざす歳出・歳入法案に対して、与党・民主党のマンチン上院議員(ウェストバージニア州選出)が19日、反対を表明し、成立のメドの立たない状態に陥る恐れが出てきた。野党・共和党は反対のため、与党議員全員が一致して賛成することが法案実現の前提となる。与党から1人が反対するだけで法案の実現は見込めなくなる。》としたが、先週は、変異株や、利上げ観測を嫌気したリスク回避の動きが後退する展開。

リスク回避が後退

- オミクロン株による感染拡大が欧米で広がり、1日当たりの新規感染者の記録を更新するも、症状が比較的軽いケースが多いことから、リスク警戒の後退が株高、ドル安、円安の動きに。米食品医薬品局(FDA)が22日に米ファイザー製の経口治療薬「パクスロビド」に緊急使用許可を出した。FDAは23日にメルクの「モルヌピラビル」にも重症化するリスクの高い成人に対して使用許可を出した。
- ただし、クリスマスウィークということで、薄商い。特に週後半は取引参加者がかなり減り、地合いはドル安・円安の継続も、値幅は限定的なものにとどまった。
- 先週末は、クリスマス休場。
- CFTC建玉明細(12/21現在)も、クリスマス休場の為、27日(月)に延期。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27~1/2)

~ ドル円 ~

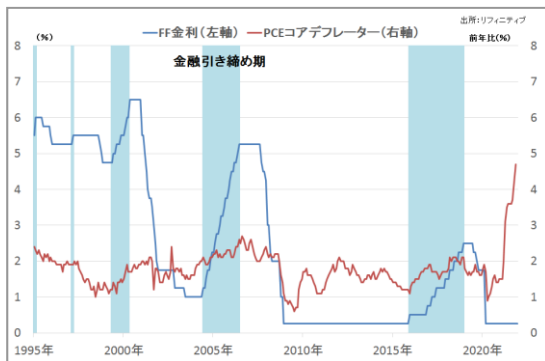
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 米商務省が23日発表した11月の個人消費支出(PCE)物価指数は、前年同月比5.7%上昇した。伸び率は1982年以来、約39年ぶりの高水準。
- FRBのウォラー理事は17日、来年3月のFOMCで利上げ開始決定があり得ると発言している。



年末年始の薄商いに注意

- FOMCに続いて、英イングランド銀行は、3年4ヶ月ぶりに政策金利を引き上げ、欧州中央銀行(ECB)も、新型コロナウイルス対策として導入した緊急の資産購入策を22年3月で終了することを決定した。これまで「インフレは一時的」としていたFRBを始め、主要中央銀行がインフレ抑制姿勢に舵を切ってきた。
- オミクロン株への警戒感の後退しており、バイデン政権が看板に掲げる大型歳出法案(1兆7500億ドル(約200兆円)規模の「ビルド・バック・ベター(より良い再建)」法案)に、与党民主党の議員が造反を表明し、成立が危ぶまれているものの、NY株式市場は堅調推移となっている。ドル円は115円の攻防戦。
- アメリカ政府は23日、ロシアがウクライナ国境で軍を増強している問題について、来年1月にロシアと協議を行う可能性があると明らかにした。ベラルーシ・ポーランドの国境の難民問題に加え、ロシア・ウクライナ間の軍事的緊張もあり、欧州圏の地政学的リスクの高まりが、ユーロの上値を抑える可能性も。年末年始の薄商いの中、偶発的な衝突にも注意したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27～1/2)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《欧米の中央銀行が金融政策の正常化に向かって前進したことで、クリスマス休暇で薄買いが予想される中、改めて出口戦略を嫌気する動きには注意だ。12月19日は、波乱が起きやすい「満月」でもある。
- 2022年は政治相場や地政学リスクも懸念されることから、金の押し目買い戦略は継続したい。》としたが、週初は、オランダのロックダウン(都市封鎖)実施や、バイデン政権の看板政策の大型歳出法案を与党議員が反対表明した事などによるリスク回避の動きを受けて戻りを売られた。
- ただし、週末にかけてオミクロン株の弱毒性が伝えられ、リスク選好のドル安に振れ、NY金(2月限)は200日移動平均線や、心理的節目1800ドルを回復。
- 南アで行われた研究で、オミクロン変異株はデルタ株と比べて入院や重症化のリスクが低いことが明らかになった。また、英製薬大手アストラゼネカと米バイオ医薬品会社ノババックスは、開発したワクチンがオミクロン株に対しても有効だと発表した。
- コア個人消費支出(PCE)価格指数は前年同月比4.7%上昇と1989年2月以来の大きな伸びとなり、高インフレが続いている。
- 先週末は、クリスマス休場。
- CFTC建玉明細(12/21現在)も、クリスマス休場の為、27日(月)に延期。

200日移動平均線 回復

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27～1/2)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課
菊川 弘之

【今週見通し・戦略】

- NY金(2月限)は、ネックライン(12/8高値)を再度上抜き、リターンムーブからの反発パターンとなった。
- エネルギー価格だけでなく、非鉄・穀物市場の上昇も続いており、物価上昇は長期化しそうだ。今後、インフレが本格化してくるなら、金の強気シナリオが意識されやすいスタグフレーションリスクも浮上してくる。
- ウクライナのゼレンスキー大統領は、クーデターを起こす計画が不特定のウクライナ人とロシア人の間で協議されていることを示す「音声記録」を入手したと説明し、ウクライナ軍11万人をロシア国境に送った理由としているが、米国も中国とロシアとの2正面作戦を回避したい思惑もあり、米ロ首脳電話会談以降、ウクライナの言い分から、少し距離を置いているような状況だ。
- プーチン大統領は23日、モスクワで内外のメディアとの年末恒例の記者会見で、東欧諸国を加盟させないというNATOの約束が過去に破られてきたとして「ひどくだまされた」と不信感を示し、NATOはウクライナが模索する将来のNATO加盟を認めず、露国境周辺への兵器配備もしない—という「法的に明文化された保証」をロシアに与えるべきだと主張した。
- 年明け1月にジュネーヴで開かれる予定の米ロ外交協議の行方が焦点。
- 偶発的な衝突リスクは残っており、クリスマス～年末年始の薄商いの中、金や原油市場にとっては、上値リスクに警戒すべき時間帯が続くそう。
- 金は、3月安値を割り込まない限り、長期の上昇トレンドに変化はなく、押し目買い戦略は、継続したい。

インフレは長期化見通し

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27~1/2)

~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



週間展望(12/27～1/2)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 「金・白金」の鞘は、一旦、「金買い・白金売り」が手仕舞われ、「金売り・白金買い」となったが、週末段階で、再び、「金買い・白金売り」に戻った格好。
- 引き続き、ボリンジャーバンドは収束中で、放れ待ち。



- トヨタ自動車は部品調達の停滞が影響し、12月も国内工場で約2万2000台の減産になる見込みとした。また1月に国内5工場の7つの生産ラインの稼働を一時停止し、直近の計画とくらべて約2万台の減産となるとした。自動車減産が続くと、白金系貴金属の自動車触媒需要の伸び悩みが意識されやすい。
- 欧州自動車工業協会(ACEA)によると、11月の欧州連合(EU26)の新車(乗用車)登録台数は前年同月比20.5%減の71万3346台。1～11月は前年同期比0.04%減の890万4900台。新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウン(都市封鎖)実施や、制限措置強化が要因。
- 心理的節目3500円水準は、価格帯別出来高の厚い抵抗帯で、同水準が支持線となるのか、それとも上値抵抗となるのかに注目。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27～1/2)

～ ゴムRSS 3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「国内市場は期近と中心限月(5月限)で順軌10円程度の水準まで縮小してきた。徐々に同軌となる可能性も。クリスマス休暇を前にした薄商い下での金融市場の波乱があると、下値リスクが高まる可能性はあるものの、過去の季節傾向では、1月も強気優位の時間帯で、年内に大崩れがあった場合、短期では売り対応も、チャート上の底打ち確認後は、中長期的な買い場探し戦略を考えたい。」としたが、先週の先限は、薄商いの中、週明けに新型コロナ感染再拡大や米追加財政政策の成立不透明感の強まりを受けてリスクオフの動きが強まる中で急落、先限は一時231.8円まで売り込まれた。
- 週末にかけて、株式・商品市場の急反発の流れに追随した。期近と中心限月(5月限)で順軌10円程度と順軌方向。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫は、12月10日現在11,675トン(前旬比484トン減)。12月上旬の入出庫は入庫724トン、出庫1,208トン。

【今週見通し・戦略】

- 本年はラニーニャ現象が観測されており、東南アジアは降雨が増加する傾向。タッピング(樹液採取作業)に支障が出るようなら、買いが入りやすくなる。過去の季節傾向では、年末年始の月間騰落率は強気優勢の時間帯。
- エネルギー価格は、天然ガスをリード役として原油価格も反発している中、オミクロン株の入院リスクは、他の変異株と比較して5～8割低いとの調査結果も出ており、株価の大崩れがなければ、減産期限月の押し目買い戦略が有効ではないか？

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

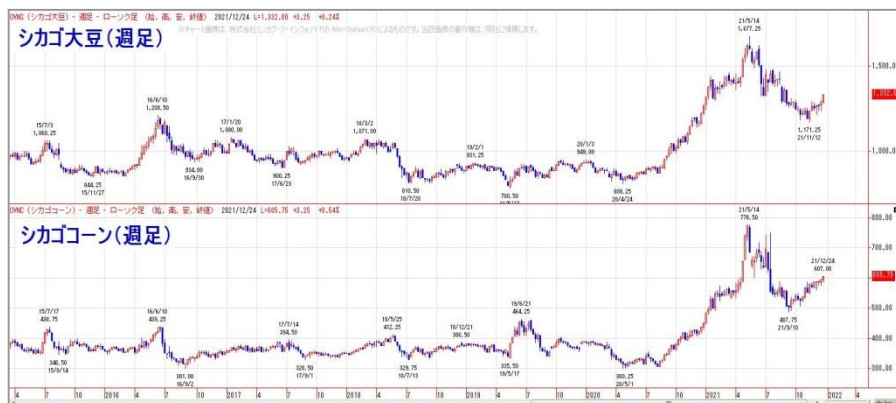
C X週間展望(12月27日～)

週間展望(12/27～1/2)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「クリスマス休暇に入ること、南米産の天候に大きな変化がなければ、クリスマス前に買玉の利食いの動きも予想される。ただ、クリスマス休暇明け後、買い余力のあるファンドが買い攻勢に出れば、コーン6ドルを試す可能性も。アルゼンチン産地の天候と小麦の動きが注目。」としたが、先週のシカゴ穀物は、ブラジル産大豆の主要産地が広がる南部で小雨傾向が長引いていることが生育懸念を深め、大幅上昇。コーンも大豆・小麦高に加えて、原油市場も切り返しとなっており、続伸となった。
- 週間純輸出成約高(12月16日までの週)
大豆:81万2500トン(事前予想レンジ:90万～180万トン)
コーン:111万5400トン(事前予想レンジ:95万～145万トン)
- 先週末は、クリスマス休場。
- CFTC建玉明細(12/21現在)も、クリスマス休場の為、27日(月)に延期。

【今週見通し・戦略】

- 1月12日に米農務省(USDA)から発表される需給報告、四半期在庫発表待ち。年末年始はアルゼンチン、ブラジル産地の天候、原油、ドルなどを見極めながらの展開。アルゼンチンのサンタフェやコルドバ州の天気は年内、最高気温が30℃を超える日が多く、年末にかけて35℃を超える猛暑予報。まとまった降雨は期待できず、高温乾燥が続くなら、南米産の天候相場が囃されそう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望（12月27日～）

週間展望(12/27～1/2)

～ 原油市場（ドバイ原油・CME原油指数）～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《クリスマス休暇に伴う薄商いで金融市場が調整を強めると追隨しそうだが、その後に控える天然ガス主導で原油市場の上値リスクには注意。11月下旬に始まったイランと欧米の核合意復帰交渉も難航している。》としたが、先週のNY原油(2月限)は、オランダが19日からロックダウン(都市封鎖)に踏み切り、バイデン米政権の看板政策である1.75兆ドル規模の歳出・歳入法案に対し、与党・民主党のマンチン上院議員(ウェストバージニア州選出)が反対を表明。財政出動の実現に不透明感が浮上し、株価が下落したことに追隨したものの、押し目は買われ週末にかけて下値を切り上げた。
- OECDの民間石油在庫が2015年初頭以来の低水準となり、需給タイト感(米国内在庫も2018年以来の低水準)が強い。米エネルギー情報局(EIA)週報では原油と製品の在庫を足し合わせた石油在庫が2018年以来の低水準を更新しており、需要超過が続いている。
- 欧州中心に天然ガスの供給難懸念が強く、「OPECプラス」の11月の減産順守率が117%と前の月から上昇し、産油国の増産が想定ほど進んでいないと報じられたのも買い材料視された。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の入院や重症化のリスクが低いとの調査結果が相次いで発表され、需要下振れ懸念や供給過剰見通しが後退。
- 米テキサス州ベイトンにあるエクソン・モービルの製油所で火災が発生したことも一因。この製油所の処理能力は日量56万500バレルと米国内で最大規模。ただ、火災はすでに鎮火している。
- 先週末は、クリスマス休場。
- CFTC建玉明細(12/21現在)も、クリスマス休場の為、27日(月)に延期。

切り返して
ダブルボトム完成

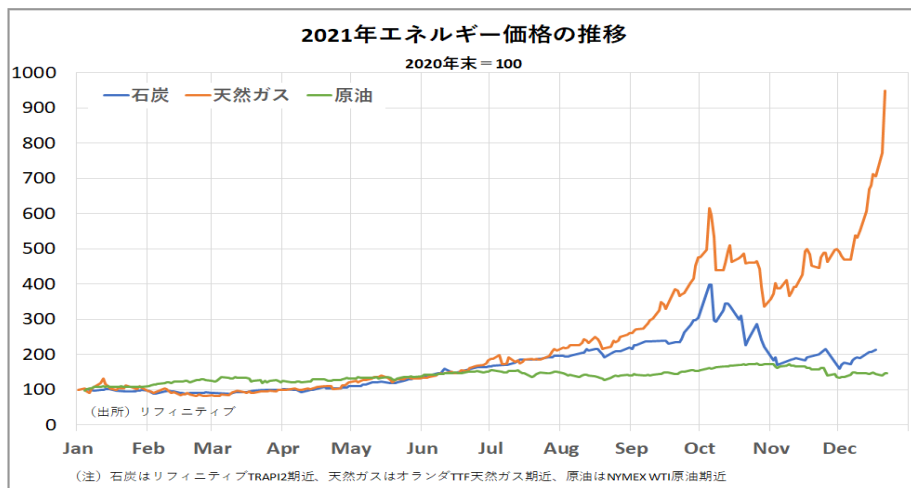
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(12/27~1/2)

~ 原油市場(ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

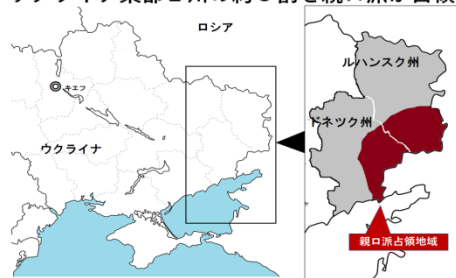
菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ポーランドとベラルーシの国境における中東からの難民問題に加え、ロシアとウクライナの国境地帯が緊張している。バイデン政権がロシアとドイツを結ぶ新たなガスパイプライン(ノルドストリーム2)の稼働阻止も辞さないとの強硬姿勢に傾き、欧州での天然ガス相場の急伸に繋がっている。

ウクライナ東部2州の約3割を親口派が占領



※日本経済新聞12/24より弊社作成

天然ガス主導での上昇

- クリスマス休暇に伴う薄商いで金融市場が調整を強めると追従しそうだが、その後に控える天然ガス主導で原油市場の上値リスクには注意。
- 12月7日にオンラインでバイデン大統領とロシアのプーチン大統領が、約2時間会談したが、米露両首脳の見解は平行線で、ウクライナ東部での緊張は一層増している状況。
- 年明け1月にジュネーヴで開かれる予定の米口外交協議の行方が焦点。
- 偶発的な衝突リスクは残っており、クリスマス~年末年始の薄商いの中、上値リスクに警戒すべき時間帯が続きそう。ドイツとロシア間で完成した「ノルドストリーム2」の承認動向と、27日に予定されているイラン核合意の再建に向けた、次官級の合同委員会の行方にも注意したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

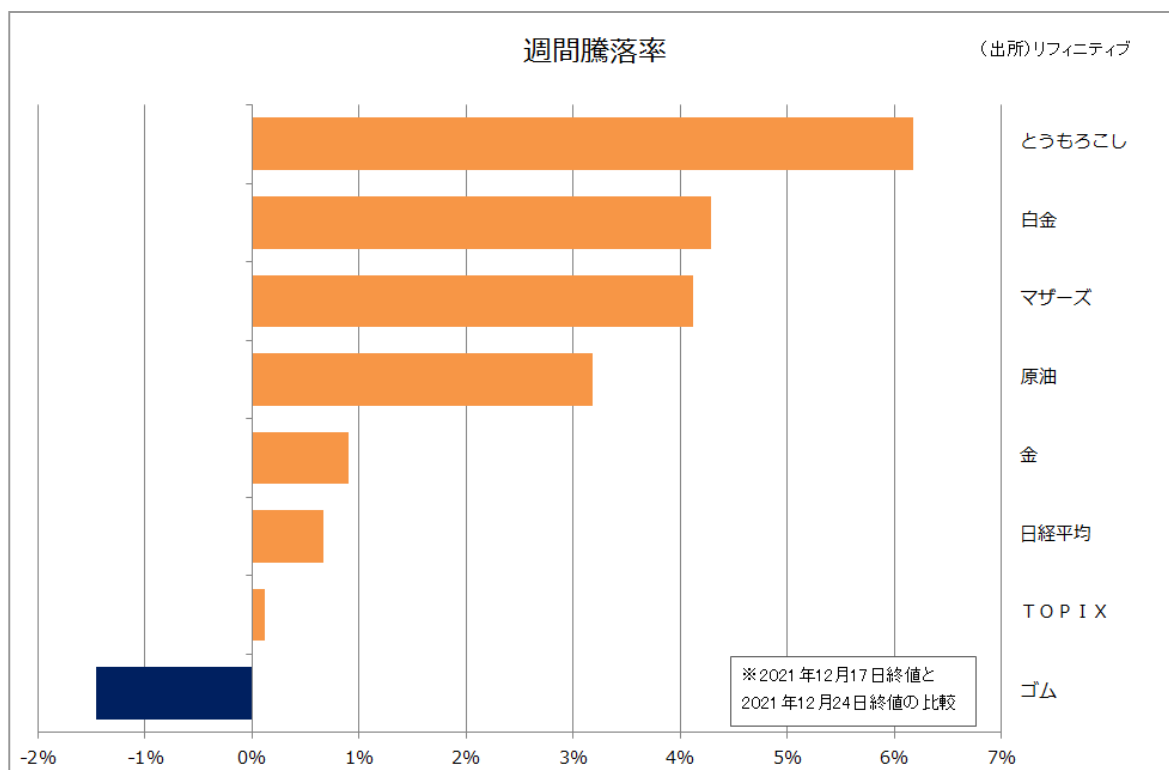
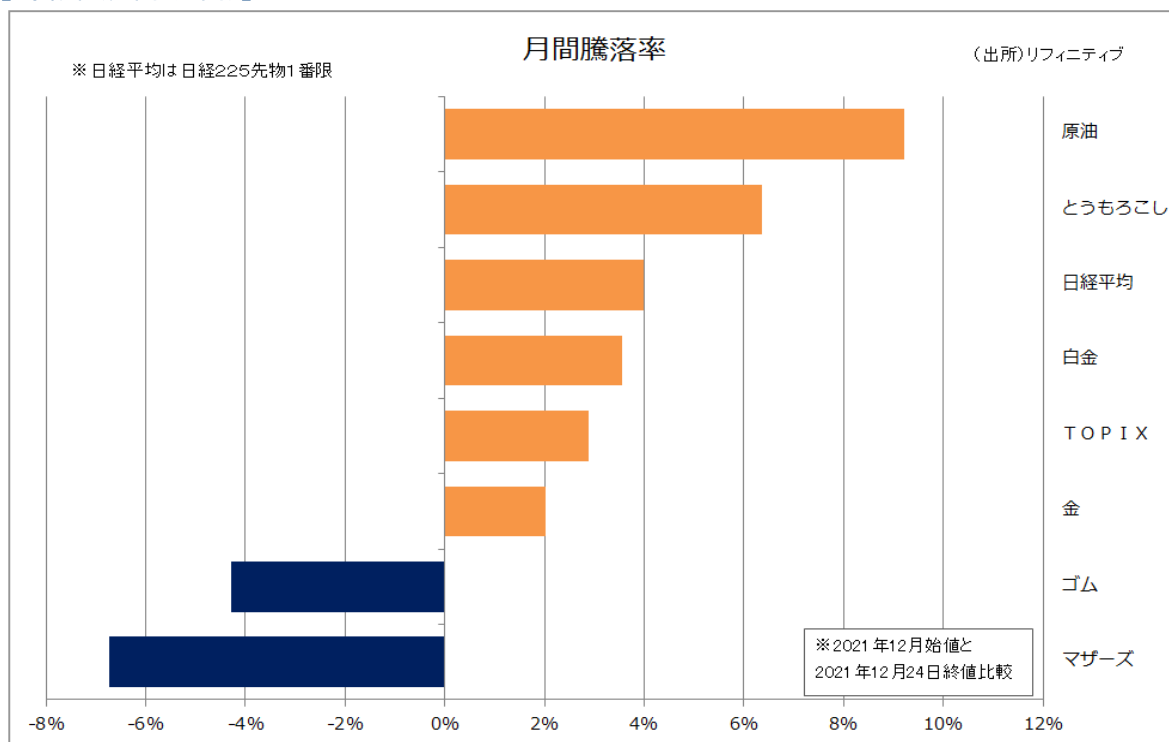
【週間行事予定(12/27~12/31)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
12月27日(月)	5:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
	8:50	日本	11月	小売業販売額(前年比)	0.9%
12月28日(火)	8:30	日本	11月	有効求人倍率	1.15
	8:30	日本	11月	失業率	2.7%
	8:50	日本	11月	鉱工業生産 速報値(前月比) 季調値	1.8%
	23:00	米国	10月	ケース・シラー20(前月比) 季調値	1.0%
12月29日(水)	0:00	米国	12月	消費者信頼感指数	
	18:00	ユーロ圏	11月	マネーサプライ M3 伸び率(前年比)	7.7%
	納会	米国	---	NY金2021年12月限納会	
	納会	米国	---	NY銀2021年12月限納会	
12月30日(木)	0:00	米国	11月	中古住宅販売仮契約指数(前月比)	7.5%
	16:00	英国	12月	ネーションワイド住宅価格	0.9%
	19:00	ユーロ圏	12月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前年比)	
	22:30	米国	12月20日, 週次	新規失業保険申請件数	
	22:30	米国	12月13日, 週次	継続失業保険受給総数	
	23:45	米国	12月	シカゴ地区購買部協会景気指数	61.8
	納会	日本	---	ゴム(TSR20) 2021年1月限納会日	
	納会	日本	---	東京原油・石油スワップ2021年12月限取引最終日	
12月31日(金)	10:00	中国	12月	国家統計局 製造業購買担当者景気指数(PMI)	50.1
	納会	米国	---	NYヒーティングオイル2022年1月限納会	
	納会	米国	---	NYガソリン2022年1月限納会	

新年(New Year's Day : 2022年1月1日)に伴う各取引所の取引スケジュール						
		21/12/30 (木)	21/12/31 (金)	22/1/1 (土)	22/1/2 (日)	22/1/3 (月)
	時間外	○	○	—	—	○
	日中	○	○ プレオープニングはなし	—	—	○
	時間外	○	○	—	—	○
	日中	○	○	—	—	○
	電子取引	○	○	—	—	○
	フロア	○	○	—	—	○
	フロア	○	○	—	—	○

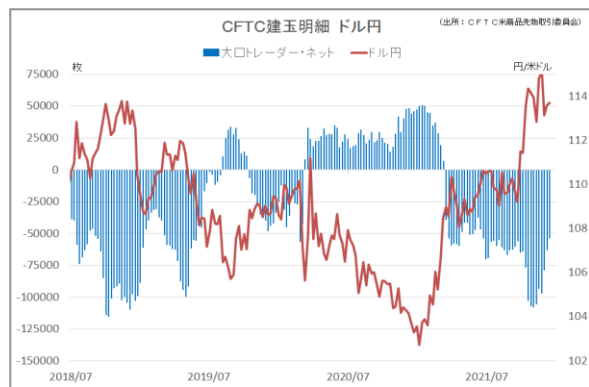
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

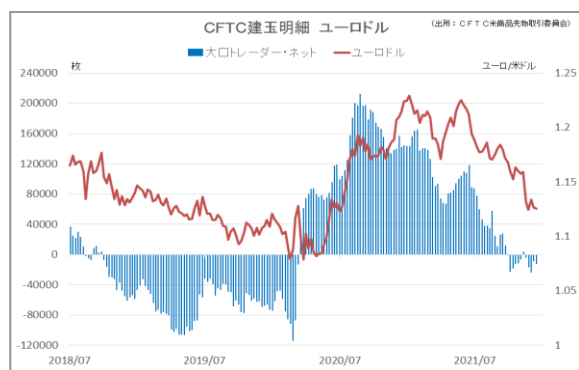


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

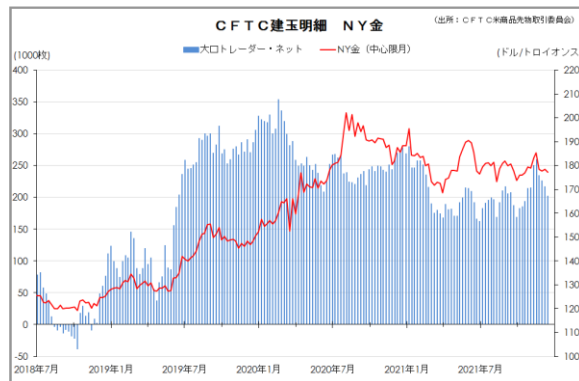
【CFTC建玉明細】 CFTC建玉明細(12/21現在)は、クリスマス休場の為、27日(月)に延期。



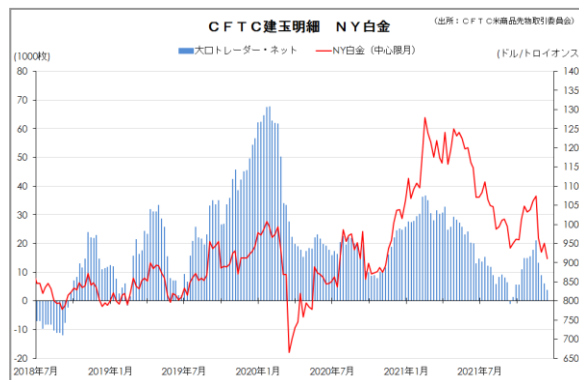
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	24,635	117,761	-93,126	114.82
2021/11/23	20,285	117,538	-97,253	115.12
2021/11/30	14,585	93,451	-78,866	113.13
2021/12/7	13,148	76,229	-63,081	113.57
2021/12/14	20,231	73,754	-53,523	113.71
前週比	7,083	-2,475	9,558	0.14



日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	198,181	202,007	-3,826	1.1319
2021/11/23	204,214	220,666	-16,452	1.1246
2021/11/30	191,048	214,288	-23,240	1.1336
2021/12/7	194,869	203,168	-8,299	1.1263
2021/12/14	189,530	201,409	-11,879	1.1257
前週比	-5,339	-1,759	-3,580	-0.0006



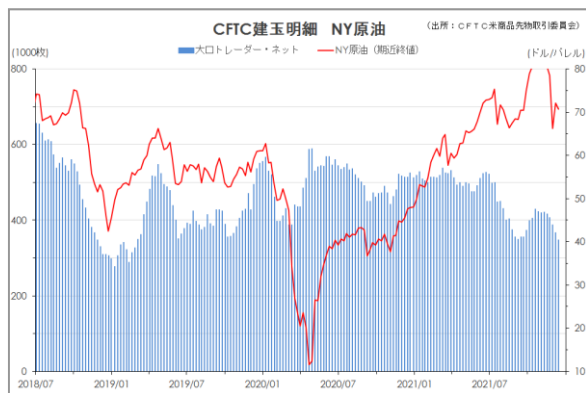
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	360,529	100,749	259,780	1854.1
2021/11/23	326,409	91,998	234,411	1783.8
2021/11/30	310,253	84,393	225,860	1776.5
2021/12/7	300,518	83,333	217,185	1784.7
2021/12/14	298,142	95,741	202,401	1772.3
前週比	-2,376	12,408	-14,784	-12.4



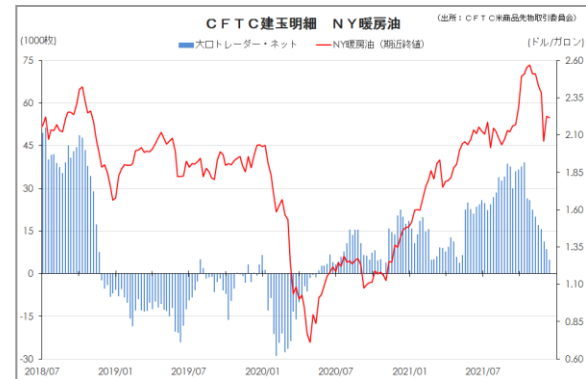
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	33,266	12,253	21,013	1074.5
2021/11/23	30,454	17,319	13,135	964.2
2021/11/30	28,408	19,460	8,948	927.3
2021/12/7	27,056	20,994	6,062	950
2021/12/14	27,853	24,122	3,731	910.9
前週比	797	3,128	-2,331	-39.1

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

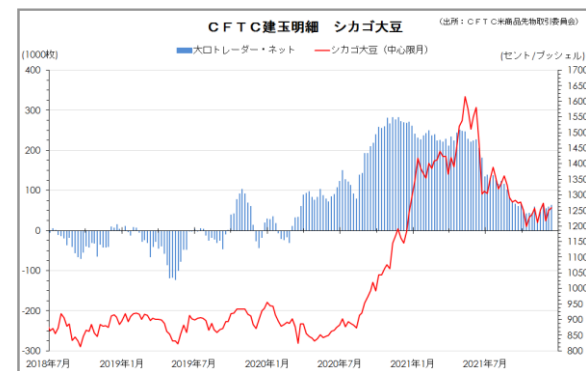
【CFTC建玉明細】 CFTC建玉明細(12/21現在)は、クリスマス休場の為、27日(月)に延期。



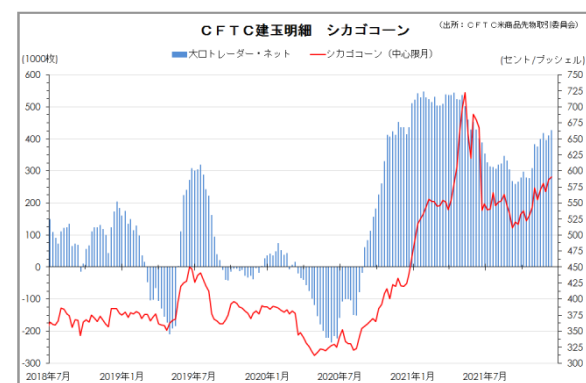
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	510,169	94,384	415,785	80.76
2021/11/23	510,586	102,929	407,657	78.50
2021/11/30	511,862	124,628	387,234	66.18
2021/12/7	492,585	125,353	367,232	72.05
2021/12/14	483,233	136,096	347,137	70.73
前週比	-9,352	10,743	-20,095	-1.32



NY暖房油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	53,501	36,472	17,029	2.4309
2021/11/23	50,383	34,752	15,631	2.3823
2021/11/30	41,864	30,639	11,225	2.0603
2021/12/7	39,877	31,280	8,597	2.2246
2021/12/14	37,337	32,614	4,723	2.2184
前週比	-2,540	1,334	-3,874	-0.0062



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	132,364	85,447	46,917	1251.25
2021/11/23	143,021	76,807	66,214	1273.00
2021/11/30	129,653	74,336	55,317	1217.25
2021/12/7	125,257	65,603	59,654	1250.25
2021/12/14	123,569	60,348	63,221	1259.50
前週比	-1,688	-5,255	3,567	9.25



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/11/16	504,851	105,665	399,186	571.00
2021/11/23	526,890	109,801	417,089	580.50
2021/11/30	474,354	79,442	394,912	567.50
2021/12/7	482,428	71,614	410,814	586.00
2021/12/14	495,864	69,243	426,621	590.25
前週比	13,436	-2,371	15,807	4.25

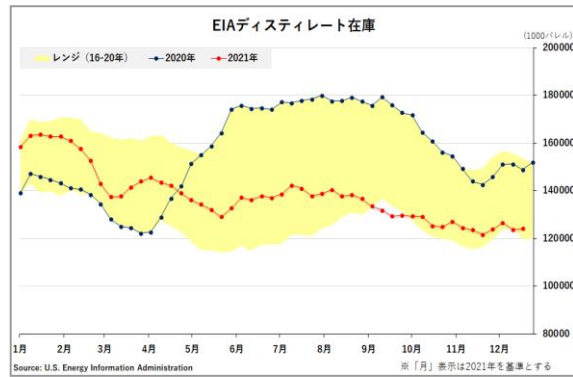
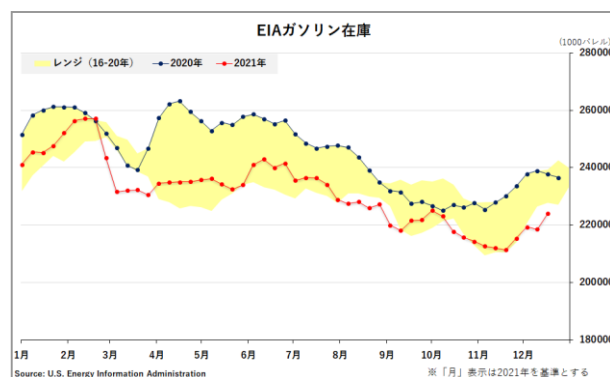
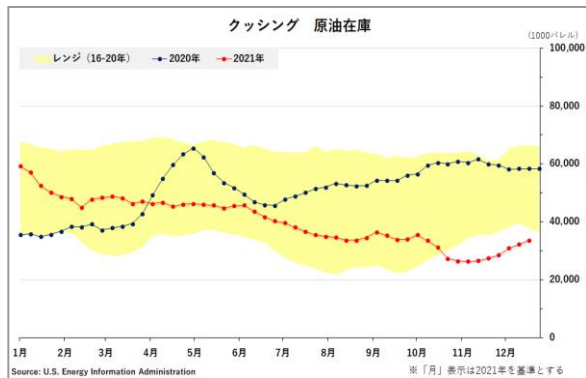
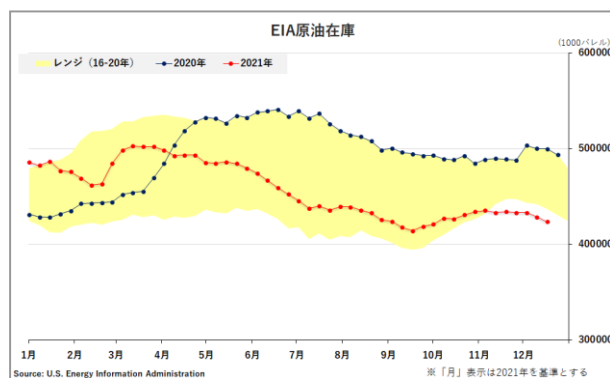
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2021/12/23	973.63	±0
2021/12/22	973.63	-4.94
2021/12/21	978.57	±0
2021/12/20	978.57	±0
2021/12/17	978.57	+0.87
2021/12/16	977.70	±0
2021/12/15	977.70	-2.90

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第131号 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。